

## 第1回「魅力ある学校づくり」案に係る情報・意見交換会（実施報告）

1. 日 時 平成27年（2015年）7月1日（水）19時～21時10分
2. 会 場 庄内公民館3階・集会室
3. 参加者 魅力ある学校づくり連絡会16人  
学校関係者：亀谷校長（第六中学校）、酒井校長・船越教頭（庄内小学校）  
市 職 員：田中センター長・金井センター長補佐（南部地域連携センター）計21人
4. 進 行 河合将生さん（office musubime）
5. 事務局 島野参事、長坂主幹、栗山主査、中辻、山本、大住コーディネーター
6. 当日の流れ

### ○19：00～ はじめに（島野より開会の挨拶）

<挨拶の内容>

- ・皆様におかれましては、昨年度、庄内地域の6小学校区で開催してまいりました「魅力ある学校づくり」ワークショップにご参加いただくなど、平素より本市の学校教育の振興にお力添えをいただいております、お礼申し上げます。
- ・本日は、南部地区の「魅力ある学校づくり」について、ワークショップで頂戴したご意見等を踏まえた現在の検討の方向性についてお知らせするとともに、皆様のご意見・ご感想をお聞かせいただき、検討を進めてまいりたいと考えております。
- ・これから3回にわたって、いろいろな観点から意見交換、キャッチボールを重ねながら、皆さんと一緒に南部地区、庄内地域の魅力ある学校づくりを考えていきたいと思っております。

### ○19：10～ 自己紹介

「今、気になっていること」、「今日、期待すること」、「今週のニュース」などを紙にご記入いただき、参加者同士で自己紹介をしていただきました。

今回、初めてお会いになる方々もいらっしゃいましたが、皆さん和気あいあいと交流されていました。



ペアになって自己紹介しました

### ○19：40～ 「魅力ある学校づくり」ワークショップ及びシンポジウム振り返り

昨年11月からこの2月まで実施しました「魅力ある学校づくり」ワークショップ及び3月22日（日）に開催しました「魅力ある学校づくり」シンポジウムについて事務局から簡単に振り返りをさせていただきました。

<主な振り返り内容>

### 第1回ワークショップ

「夢を語り合いましょう」というテーマで、今の学校のよいところ、自慢できるところ、それから将来こういう学校になればいいな、という夢やアイデアをたくさん出していただきました。どの学校でも、「子どもたちが元気、素直、やさしい、人懐っこい」「先生たちが熱心、仲が良い、子どもたちとよく遊んでくれる」「地域の人子どもたちの見守りや各種行事に協力的」といった意見が出ていました。



ワークショップで作成したシートを紹介しながら振り返りました

### 第2回ワークショップ

「夢をかたちにしましょう」と題して、「15歳の子どもたちにどんな力を身につけてほしいか」、そうするためには「どのような準備が必要か」を考えていただきました。また、話し合いの参考になればということで、他市の事例、例えば施設一体型小中一貫校や、学校と他施設の複合化など、フリップを使って紹介しました。

### 第3回ワークショップ

「わたしたちの提案」と題して、どのような子、人を育む学校が魅力的なのか、それを実現するための取り組みとして、「今すぐに出せること」から「将来できればいいな」まで、時系列に整理して、班ごとにご提案いただきました。どのような子、人に育ってほしいのかというところでは、「思いやりを持つ」、「人の痛みがわかる」、人とのつながりというところでは、「コミュニケーション力」、「社会で生き抜く力」などのご意見が多く出ていました。また、どうすればそのような子、人を育むことができるのかというところでは、例えば、専門分野に精通しているゲストティーチャーを招くなどの工夫をすること、多様な人々とつながり、コミュニケーションをとる機会を多く設けること、ボランティア体験をさせるなどといったご意見をいただきました。

### シンポジウム（2部構成）

第1部は、「魅力ある学校づくり」ワークショップ及び（仮称）南部コラボセンター基本構想とすでに行われているモデル事業についての報告を行いました。第2部は「庄内地域における魅力ある学校とは」というテーマで、河合さんにコーディネーター役をお願いして、当時京都ノートルダム女子大学、現在は大阪成蹊大学教授の山本智也さん、六中校区地域教育協議会会長の増森兆さん、庄内小学校校長の酒井典子さん、豊中市教育長の大源文造によるパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、「魅力ある学校づくり」についてそれぞれの立場と経験からさまざまなご意見をいただきました。最後に、大源教育長から「小1プロブレム」や「中1ギャップ」の問題を解消するには、育ちの連続性を見据えて、小中連携を大切にしていかなければならないことや、福祉や医療など社会資源とも連携していく必要があること、（仮称）南部コラボセンターと学校が連携し、地域の方と一緒に進めていかなければならないといったお話がありました。

## ○20:05～ 庄内地域における「魅力ある学校づくり」の考え方について

●別紙資料のとおり

## ○20:15～ 意見交換

## <主な質疑及び意見>

### 事務局と参加者の意見交換

【意見】 昨年のワークショップが抽象的な内容だったので、何をめざしているのか分からなかったが、今日の説明を聞いて、ワークショップで取り組んできたことの意味が分かった。学校が再編されるのは、わくわくすることであり、協力したいと思う地域の方はたくさんいらっしゃると思う。

【質問】 学校を再編して、ある程度の学校規模を確保したら、子ども一人あたりに対する教職員の数は増えるのか。

【回答】 教職員の定数は、国の法律によって定められている。子どもの数が増えれば、学級数が増えることになるので、それに則って教職員が増えることになる。また、学校が統廃合された場合は、期間限定等の条件はあるが、教職員の定数が加配される。加えて、豊中市の財源で独自に常勤の教員を雇える制度を利用することも考えられる。学校を再編した際には、さまざまな制度を活用し、適正な人的配置をしていく。子どもの数が2倍になったからといって、単純に教員の数が2倍になるわけではないが、教員が増えれば、子どもに関わる教員も増えることになり、色々な場面で子どもを見守れることになる。また、学校の規模を一定確保すると、子どもたちの活動が活発化され、それを支える教職員の体制が整い、小規模校ではできなかったような教育活動等ができるようになる。



事務局と参加者が意見交換をする様子

【質問】 小中一貫教育は、9年間を見据えて、小学校と中学校が連携して教育を行うことだと思うが、分割校があれば小中一貫教育がやりにくいのではないかと。例えば、島田小学校は、第十中学校と第七中学校の両方と連携しなくてはならないので、教員に係る負担は大きくなると思う。分割校を解消してから、小中一貫教育を進めていくべきではないか。

【回答】 小中一貫教育の施設形態の例として、小学校と中学校の校舎が一体的に設置されている「施設一体型」があるが、施設一体型では、小・中学校で統一した管理職の配置（校長が1人、副校長または教頭が複数人）がみられる。また、校舎は離れているが、教育課程に一貫性を持たせて小・中学校が連携して教育を行う「施設分離型」では、小・中学校のそれぞれに校長を置いたうえで、そのうちの1人を小・中学校全体の統括者とするような管理職の配置がみられる。現在、豊中市は小中一貫教育に取り組んでいるが、現状では、日常的に小学生と中学生が交流したり、小・中学校の教員と一緒に授業を行ったりするところまでいっていない。その理由として、分割校があることが挙げられる。例えば、第六中学校と庄内小学校は隣接しており、連携を取りやすいが、第六中学校には、庄内小学校だけではなく、庄内南小学校や千成小学校の児童も進学してくるので、庄内小学校とだけ連携を深めることはできないという実情がある。分割校を解消する上で、単に小学校と中学校の数を合わせるだけでなく、子どもたちの数が減ってきている中で、将来を見据えて、より良い教育環境を整える必要がある。特定の学校を残すということではなく、すべてを白紙の状態、どこにどのような学校をつくるのが望ましいのか、今、教育委員会では、さまざまなシミュレーションをしている。

【質問】大胆に学校を変えるということだが、すべての小学校と中学校を同一校舎にすることやすべての学校を建て替えることは考えられるのか。

【回答】すべての学校を建て替えるということは、現状の3中6小をそのまま残すことになり、子どもたちの規模が変わらないため、想定していない。また、すべての小学校と中学校を同一校舎にすれば、昨年度に行った将来推計において、平成32年度には小・中学校の児童・生徒数を合わせ、2,400人程度を予測しており、そのような大規模の学校を適正に運営できるのかという問題がある。教育委員会としては、どこかとどこかの学校を統合するとか、吸収するという考え方ではなく、3中6小を一旦すべて閉校にして、新しい学校をつくりたいと考えている。

【質問】個人的な所感だが、今の若い子は、親が何でもしてあげるといった傾向があるため、考えが甘くなっていると感じる。小中一貫教育においても教員が子どもに何でもしてあげるといった印象があるので、子どもたちの成長や経験を考えると必ずしも良いとは言えないのではないかと。小学校から中学校に進学する際には、さまざまな出会いを通じて切磋琢磨して成長していくが、小中一貫校では、変わらない環境の中でぬるま湯にずっと浸ったような状態で育つことになる。高校で初めて色々な人と出会うことになるので、そこでうまく適応できるか心配である。ずっと同じ友だちや教員の中で学ぶということが、果たして、子どもたちにとって良いのか。また、中学校の規模が大きくなると、子どもたちが群れて、問題行動を起こすようになるのではないかと。私が中学生だった頃は、生徒数が多く、悪いことをする子が集まっていたが、今は、人数が少なく、悪いことをすれば目立つので、問題行動を起こす子どもが少なくなっている気がする。

【回答】施設一体型小中一貫校の場合、ご指摘のような課題があるとされているが、それを改善、解消する取り組みの事例もある。施設分離型であれば、中学校進学時に新たな出会いがあるなど状況は異なる。小学校から中学校に進学すると、不登校や問題行動、学習についていけない子どもが増えると言われている。小中一貫教育は小学校と中学校の段差を緩やかにし、9年間を見据えて、子どもたちに力をつけていくというものである。小中一貫教育においても、適当な段差はどの学年でも必要だと考えており、教育活動の中身、どのような小中一貫校をつくっていくのかということが問題になってくると考えている。

#### 参加者同士の意見交換で出たご意見

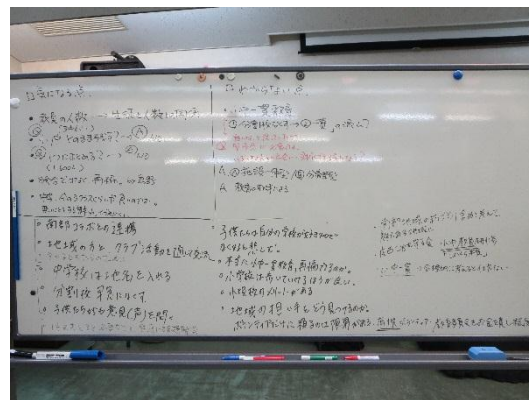
- ・学校を再編する際は、学校のことだけで考えていくのではなく、南部コラボと連携をとって、学力以外の生活環境も向上させていくことが必要である。
- ・地域の方にクラブ活動を指導してもらって子どもたちに関わってもらいたい。先生のいうことは聞かないが、地域の人ということは素直に聞く傾向がある。
- ・歴史のある小学校が廃校になる際には、そこで開催されていた祭りなどの伝統的な行事や、その行事に関わってこられた地元の方々の気持ちを考えることが必要であるが、最優先すべきことは、今の子どもたちの教育環境を



3,4人のグループになって意見交換をしました

整えることである。

- ・中学校の名称は数字ではなく、地名にする。逆に、小学校は思い入れが強い方が多く、地名にすると揉める恐れがあるので、数字にするほうが良い。
- ・今、千成小学校の6年生は58人おり、そのうち50人が第六中学校へ、8人が第七中学校へ進学する。このように不均衡に進学する状態なので、早急に分割校をなくしてほしい。
- ・学校再編は子どもたち自身に関わることなので、子どもたちの声を聞くべきではないか。
- ・単学級のある小学校が多い中で、子どもたちが新たな希望や出会いを持つのが難しい状況にある。早急に小学校の再編をしてほしい。
- ・子どもたちは、自分の通っている学校に愛着を持っていると思うので、統廃合の話が出た時に、悲しがると思うが、50年後のことを考えると、今、学校を再編することは必要なことだと思う。
- ・再編はいつになるのか。本当に小中一貫校ができるのか。現時点では、具体案も出しておらず、想像もできない。
- ・小学生、特に低学年の子どもたちが歩いて通える距離に学校を配置する必要がある。
- ・人数が多すぎるので、中学校を1つにするのは良くない。また、小規模校のメリットは多くあり、今すぐに再編することが本当に良いのか疑問である。
- ・地域に高校や大学が少なく、先輩たちの姿をあまりみることがないため、子どもたちが大人になっていく自分のイメージを描きにくいのではないか。
- ・地域の担い手が同じ顔ぶれになっているという現状があるので、いかに新しい担い手を発掘していくのかというのがこれからの課題になる。また、ボランティアだけに頼るのは限界があるので、ボランティア活動を有償化するなど、教育費をかけて人材を獲得していく必要がある。
- ・南部地域のまちづくりの視点を含めて、魅力ある学校をつくらなければいけない。また、地域に魅力がないと人口は増えていかない。
- ・「庄内西の子どもを守る会」で聞いた報告によると、小学校の授業に中学校の教員が加わって一緒に授業を行ったり、小・中学校の教員が合同で研修したりするなど、教員が本気で子どもたちの教育に取り組んでいることが分かった。
- ・小中一貫教育は、人口が減少している中で、合理的なものであると感じる。



皆さんからいただいたご意見を記入したボード

## ○21:00～ おわりに（長坂より閉会の挨拶）

<挨拶の内容>

- ・本日は、お忙しい中、「魅力ある学校づくり」案に係る情報・意見交換会にご参加をいただき、ありがとうございました。
- ・本日、多くのご意見をいただいたように、さまざまな方のお声をお聞きしながら、「魅力ある学校づくり」の具体案の方向性を見定めてまいりたいと考えております。
- ・次回は、7月22日（水）19時～21時、庄内公民館・集会所にて開催を予定しておりますので、ご都合が合えば、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。